

科目名	基礎看護方法Ⅱ (生活援助技術) Fundamental Nursing II		川島 珠実 (202) 灘波 浩子 (204) 鈴木 聡美 (103) 菅原 啓太 (208) 岡根 利津 (208) 西川 真野 (208)	川島:tamami.kawashima@mcn.ac.jp 灘波:hiroko.namba@mcn.ac.jp 鈴木:satomi.suzuki@mcn.ac.jp 菅原:keita.sugawara@mcn.ac.jp 岡根:ritsu.okane@mcn.ac.jp 西川:mano.nishikawa@mcn.ac.jp							
履修年次	1年次 後期	科目区分	専門科目・実践基盤看護学	選択区分	必修	単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	科目等履修生	否
科目目的	対象者の生活上のニーズを満たすための看護援助について、科学的根拠に基づき安全・安楽に実施する技術を、主体的な学習により修得する。										
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)									
	関連するDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。 I 自己の課題に対して研鑽する態度を身につけている。(姿勢・態度)									
到達目標	1. 対象者の生活を、生理・心理・社会面からアセスメントするための視点を説明できる。 2. 対象者の生活行動を安全・安楽・自立に向けて援助するために必要な知識と技術を習得できる。 3. 科学的根拠に基づいて看護を実践することの必要性を説明できる。 4. 自らの学習課題に対して着実に演習や自己練習に取り組むことができる。										
成績評価方法(基準)	筆記試験(60点)、課題レポート(35点)、技術確認(5点)による総合評価を行う。なお、筆記試験・課題レポートはそれぞれ60%以上の評価であることを単位認定の条件とする。 重要:筆記試験は、技術確認に合格した者のみ受験することができる。										
再試験の有無と基準等	筆記試験で不合格となった場合、本人からの申請により、再試験を受けることができる。 課題レポートで不合格となった場合、本人からの申請により、再度レポートを提出することができる。										
教科書	系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ,第17版,医学書院 系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ,第17版,医学書院										
参考書等	ゲージコフ・ハンター著,湯楨ますほか訳:看護の基本となるもの(再新装版),日本看護協会出版会 フリス・ナイティンゲル著,小玉香津子・尾田葉子訳:看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護,日本看護協会出版会 その他、授業の中で適宜紹介する。										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	基礎看護方法では、看護技術の根拠を考えながら、対象者を尊重し、その人に合わせた方法を追求してもらいたいと考えています。そのため、事前学習が必須となり、講義・演習ではグループで基本的な看護技術から応用まで発展的に検討することを重視します。また、演習では、学生間で患者役・看護者役を交代しながら学習しますので、「あとは自己学習(練習)すれば技術習得できる」ことを目指し、自己練習のポイントをつかみましょう。 日常生活援助技術は、授業(講義・演習)を受けるだけでは習得することはできません。各自が看護技術の根拠を踏まえた予習・復習・自己練習に主体的に取り組むことを期待します。										
備考	・授業の一週間前までに「資料レポート管理システム」に授業概要や事前課題(レポート・映像教材視聴含む)や演習用紙(演習ノート)等を提示する。それを授業までに各自でダウンロードし、事前準備・予習を行う。 ・演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制で、演習準備と演習後片付けを課すため、自己の役割を理解して主体的に取り組む(詳細はオリエンテーションで示す)。										
回	学習項目	学習内容							主担当教員	授業方法	
1回	オリエンテーション コミュニケーション①	科学的根拠に基づいた看護技術を習得するための学習方法について学ぶ。 看護場面における専門的コミュニケーションに必要な能力や態度について理解する。							川島	講義	
2回	コミュニケーション② (コミュニケーションの実践)	コミュニケーション場面の疑似体験を通して、自己のコミュニケーションの特徴や自己課題を明らかにする。							川島、他	演習	
3回	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの意義および概要について理解する。 フィジカルアセスメントの基本的技術を学ぶ。							川島	講義	
4回	フィジカルアセスメント①	バイタルサインの意味および体温・脈拍・呼吸・意識状態を安全・安楽・正確に観察・評価するための方法を学ぶ。							川島	講義	
5回	フィジカルアセスメント② (体温/脈拍/呼吸)	体温・脈拍・呼吸を安全・安楽・正確に観察するための技術を学ぶ。							川島、他	演習	
6回	フィジカルアセスメント③	血圧を安全・安楽・正確に観察・評価するための方法を学ぶ。							川島	講義	
7回	フィジカルアセスメント④ (血圧)	血圧を安全・安楽・正確に観察する技術を学ぶ。							川島、他	演習	
8回	清潔援助技術Ⅱ①	清潔の意義、アセスメントの視点、清潔の援助方法を学ぶ。							菅原	講義	
9回	清潔援助技術Ⅱ② (部分浴)	臥床している対象者に対して、安全・安楽に足浴を行う技術を学ぶ。							菅原、他	演習	
10回	清潔援助技術Ⅱ③	洗髪および口腔ケアの方法と留意点を学ぶ。							鈴木	講義	
11回	清潔援助技術Ⅱ④ (洗髪)	臥床している対象者に対して、安全・安楽に洗髪を行う技術を学ぶ。							鈴木、他	演習	
12回	清潔援助技術Ⅱ⑤ (洗髪)	臥床している対象者に対して、安全・安楽に洗髪を行う技術を学ぶ。							鈴木、他	演習	
13回	食事援助技術①	食事・栄養のニーズを充足するための基礎的知識とアセスメントの視点を学ぶ。							岡根	講義	
14回	食事援助技術② (食事介助・口腔ケア)	自力で安全に食事摂取ができない対象者に対して、安全・安楽に食事介助を行う技術、および口腔ケアを行う技術を学ぶ。							岡根、鈴木、他	演習	

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
15回	清潔援助技術Ⅱ⑥	全身清拭および陰部洗浄の方法と留意点を学ぶ。	菅原	講義
16回	清潔援助技術Ⅱ⑦ (全身清拭)	臥床している対象者に対して、安全・安楽に全身清拭を行う技術を学ぶ。	菅原、他	演習
17回	清潔援助技術Ⅱ⑧ (陰部洗浄)	臥床している対象者に対して、安全に陰部洗浄を行う技術を学ぶ。	菅原、他	演習
18回	総合演習①	看護技術のポイントを他者評価を通して再確認し、自己の技術の課題を明らかにする。	菅原	演習
19回	フィジカルアセスメント⑤	消化器系（腹部）のアセスメント方法を学ぶ。	鈴木	講義
20回	フィジカルアセスメント⑥ (消化器系)	消化器系（腹部）のフィジカルイグザミネーション技術（視診・聴診・打診・触診）を学ぶ。	鈴木、他	演習
21回	排泄援助技術Ⅰ①	排尿・排便の意義、メカニズム、アセスメントの視点、排尿・排便障がいの種類を学ぶ。	鈴木	講義
22回	排泄援助技術Ⅰ② (便器・尿器)	臥床している対象者に対して、安全・安楽に排泄介助を行う技術を学ぶ。	鈴木、他	演習
23回	総合演習②	これまでの学習を活用しながら、事例患者に対し安全・安楽をふまえた援助方法を個人・グループで検討する。	鈴木、他	演習
24回	技術確認	バイタルサインの測定を、対象者の状況に合わせて、安全・安楽・正確に行うことができることを確認する。	川島、他	演習
25回	食事援助技術③	非経口的栄養摂取法の種類と留意点および基本的な援助方法を学ぶ。	岡根	講義
26回	食事援助技術④ (経管栄養)	非経口的栄養摂取法の種類と留意点および基本的な援助方法を学ぶ。	岡根、他	演習
27回	フィジカルアセスメント⑦	呼吸器系のアセスメント方法を学ぶ。	灘波	講義
28回	フィジカルアセスメント⑧ (呼吸器系)	呼吸器系のフィジカルイグザミネーション技術（視診・聴診・打診・触診）を学ぶ。	灘波、他	演習
29回	フィジカルアセスメント⑨	心・血管系のアセスメント方法を学ぶ。	西川	講義
30回	フィジカルアセスメント⑩ (心血管系)	心・血管系のフィジカルイグザミネーション技術（視診・聴診・触診）を学ぶ。	西川、他	演習

## 学 習 課 題

※レポート課題の提出や配点は、別途知らせる。

1回目課題（事前）：授業ガイダンス資料を事前に読み、学習方法・内容の概要を理解する。

2回目課題（事後）：自らのコミュニケーションの傾向を振り返り、レポートを提出する。

3回目課題（事前）：教科書や資料を元に、ヘルスアセスメントの意義および概要について整理する。  
フィジカルアセスメントの基本的技術を復習する。

4・5回目課題（事前）：形態機能学の知識と教科書や資料を元に、体温・脈拍・呼吸のメカニズムを復習する。  
教科書や資料を元に、バイタルサインの測定項目と正常値を整理する。

4・5回目課題（事後）：授業資料や演習資料をもとに、体温・脈拍・呼吸の観察を復習する。

6・7回目課題（事前）：形態機能学の知識と教科書や資料を元に、血圧調整のメカニズムを復習する。

6・7回目課題（事後）：事例に沿った方法でバイタルサインの観察を行い、レポートを提出する。

8・9・10・11・12・15・16・17回目課題（事前）：教科書や資料を元に、清潔の意義や身体各部を清潔に保つ方法を整理する。

8・9・10・11・12・15・16・17回目課題（事後）：身体各部を清潔に保つ方法のチェックリストを用いて自己の技術を評価し提出する。

13・14回目課題（事前）：教科書や資料を元に、栄養状態や水分出納のアセスメントの方法を整理する。

13・14回目課題（事後）：自力で安全に食事摂取ができない対象者の食事介助について、レポートにまとめ提出する。

18回目課題（事後）：看護技術に関する自己の技術の課題を明らかにし、技術確認までの練習計画を立案する。

19・20回目課題（事前）：形態機能学の知識と教科書や資料を元に、消化器系の解剖と、消化・吸収のメカニズムを復習する。

19・20回目課題（事後）：腹部のフィジカルイグザミネーション結果から、正常と異常をアセスメントして記録に整理し提出する。

21・22回目課題（事前）：教科書や資料を元に、排泄のメカニズムを復習する。自己の排泄状況を観察し、記録する。

21・22・23回目課題（事後）：授業資料を元に排泄援助方法とその根拠について復習する。

24回目課題（事後）：自己の技術評価から見出された課題克服に向けた学習計画（知識・技術両面）を立案する。

25・26回目課題（事前）：教科書や資料を元に、非経口的栄養摂取法の種類と特徴を整理する。

25・26回目課題（事後）：経鼻経管栄養法の方法と留意点を整理する。

27・28回目課題（事前）：形態機能学の知識と教科書や資料を元に、呼吸器系の解剖・生理学を復習する。

27・28回目課題（事後）：呼吸器系のフィジカルイグザミネーション結果から、正常と異常をアセスメントして記録に整理し提出する。

29・30回目課題（事前）：形態機能学の知識と教科書や資料を元に、心・血管系の解剖・生理学を復習する。

29・30回目課題（事後）：心・血管系のフィジカルイグザミネーション結果から、正常と異常をアセスメントして記録に整理し提出する。

## 実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。